

書四ヶ村、枝郷六ヶ處、家數二十七軒、田畠とも押埋申候、尤人馬怪我無御座候、變事之儀ニ付、此段御届申上候、以上、

三月十九日

在所の日附也

松平丹波守

〔視聽草二集十〕文政七年陸奥國二本松山崩御届書寫

私領内、陸奥國安達郡深堀小屋地前嶽山之内、温泉有之、湯治人相越候小屋并湯小屋等有之候處、去月三日より大風雨ニ而同十五日夜、温泉の方ニ鐵山與相唱候山有之候處、山之中程より崩落、右小屋之殘少々打潰、土中ニ埋、湯治人并ニ同所居付候者怪我人即死人も餘程有之趣ニ候得共、疾速ニ右員數取調出來兼候間、與得調之上、追而御届可仕旨、去月御用番松平右京大夫殿へ御届申上置候處、右埋候場所、追々取形付候ニ付、相調候次第、左之通ニ御座候、

一家數十三軒 内内拾人 軒押埋

一 湯坪 四ヶ所 押埋

一六拾五人 死失人 内内拾人 男

一五拾壹人 怪我人

右之通、在所役人共ヨリ申來候ニ付、此段御届申上候、以上、

壬 八月二十三日

丹羽左京大夫

文政七申年八月十五日、赤井兵庫方へ丹羽家より爲知成候文通寫、

以手紙致啓上候、左京大夫様御領分、陸奥國安達郡深堀小屋地所山嶽之内、温泉場有之候處、去月十三日より大風雨ニ而同十五日夜、温泉登方山之中程より崩落、湯治人相越居候小屋并湯坪殘少ニ打潰、怪我人即死人等、左之通御座候ニ付、今日御用番様江御届被成候、